



『まえだとし女 六百五十句』



まえだとし女

砂糖黍持たせてくれしお下げ髪  
娘らの中に子と母花火待つ

いつときはばつたがささる花火かな  
娘らの去りし事情や大花火  
大泣きは花火と化して夕空へ  
漆黒のかぶとの箱や菖蒲の日  
葉桜や子について行く鮫洲駅  
「なつとう」とふ声遠ざかる夏隣  
バードウィークご近所野菜と括る札  
五月来るここにも古き純喫茶

『まえだとし女 六百五十句』

